

会議録

会議の名称	西東京市国際交流組織設立検討懇談会（第7回）
開催日時	平成17年3月16日（水） 午後6時30分から午後9時00分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎1階 102会議室
出席者	木下座長、山辺副座長、斎藤委員、佐々木委員、島谷委員、鈴木委員、富山委員、豊福委員、長谷川委員、楊委員 【事務局】大平課長、堀主事、平山主事
議題	西東京市の国際交流組織は何をすべきかについて
会議資料の名称	西東京市基本計画
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	

○木下座長：

第5回、第6回会議録の確認を行う。

○事務局：

第6回会議録について、3ページの一番上の山辺副座長の発言について、本人より修正の提案があったので、ご確認いただきたい。

○富山委員：

第6回会議録について修正をしていただきたい。5ページの武蔵野市の市報に市民が市政に関心があることについて、国際交流への関心が上位20位に入っていなかったという発言をしたが、後日確認したところ、20位であった。

○山辺副座長：

（同発言内にて、誤字があることを指摘。）

○木下座長：

会議録の確認を終了する。これまで、会議録確認の作業をしてきたが、修正確認後の会議録を改めて配布していただきたい。

○事務局：

メールや郵送等の手段で送付する。

○木下座長：

それでは、本日の議題に入る。

○豊福委員：

前回の会議の中で、意見、考えなどを各自レポートにして出し合うことを提案したが、会議録にそのことが取り上げられていないのは、みなさんにとっても雑談のなかでの発言という認識だったのか確認したい。

○木下座長：

その提案については、レポートを出し合うことに意見が一致したというよりは、提案として話しが出たという認識である。発言については、会議録に追加することとする。

○豊福委員：

理念や組織論の理念等を話し合うにあたって、この場で思いつくままに話しているよりも書いたほうが、話しがまとまってくるのではないかと思います。提案した。

○木下座長：

意見等を書いたほうが整理しやすいという点を踏まえ、今回は模造紙や付箋、サインペンなどを事務局に用意していただいた。これまでの話し合いの中では、組織の目的などをまずは決めて、具体的な事業を考えていくほうがよいのではないかという意見も出た。しかし、今回は、具体的な事業などを各自出していただき、それらを整理するなかで目的や理念などを導き出すＫＪ法を進める。西東京市に国際交流組織をつくったとしたらという前提で、何をすべきかなど思いつくことを何でも付箋に書いて、それらについて話し合いをしながら項目に分けていく作業に入る。

○山辺副座長：

懇談会の資料等を参考にしながら、１枚の付箋につきひとつの意見を短くまとめて、何枚でも出していただきたい。

（付箋、マジック配布。以後、各自意見を記入しながらの意見交換）

○事務局：

これまでの配布資料が必要な場合は、適宜用意する。

○斉藤委員：

この懇談会には、どのくらいまでの役割が求められているのか。また、この懇談会の位置付けがどういうところなのかがわからない。立川を例に話すと、組織ができ

るまでにまずは答申が出て、国際委員会、準備委員会というようにさまざまな段階を経ていると思うが、この懇談会はどの段階なのか。また、立川でいうところの準備委員会等のことまで踏まえて話し合うのか、それともまずは大綱つくるという段階までなのか、その点について確認したい。

○事務局：

当初、懇談会を設立したのは、組織の大枠について意見をいただくためであり、具体的に組織の設立が決まった段階では、別の準備委員会等を立ち上げる必要がでてくる。

○斉藤委員：

この作業は、語学講座や具体的な事業等のやりたいことなどを出して、それをもとに座長が抽象的な意見へとまとめていくのか。もし、理論的なものにまで入ってしまうと、委員それぞれの経験や知識等の違いもあり、議論がかみ合わないのではないか。

○木下座長：

各委員が、こういう組織ができればよい、あるいはどんな事業をしたらよいというような意見をたくさん持っていると思うので、それをまずは書き出していただいて、整理をしていきたい。具体的な事業が挙げたら、それも参考意見として検討材料とする。

○斉藤委員：

ネットワークの構築や情報収集や多言語による情報提供というようなレベルでの抽象的な大綱、答申の作成を求められているのか。

○事務局：

あくまでも組織設立を検討するための懇談会である。

○斉藤委員：

それでは、とにかく委員が意見を出し合って、それをもとに事務局がまとめてヒントを得たいというようなことなのか。

○事務局：

最終的には提言までを懇談会でまとめていただく。それを市が受け取り、提言として踏まえ検討を進めたいと考えている。

○斉藤委員：

提言として最低限必要な事項等がわからないので、今日の作業では、本当に具体

的な事業の内容などについても意見としてどんどん出してよいのか。

○木下座長：

あらゆる意見を出していただいて、具体的、抽象的といったレベルで、または内容で分類してまとめていく。抽象的な議論を今まで重ねてきたが、意見がまとまらないままに懇談会が進行してきた。西東京市に当てはめるかは別として、他市の方法などを参考としながら、精査して意見を出していかないとなかなか進まないのではないか、という意見が以前に出た。

○斉藤委員：

とにかく意見を書き出す作業してみてもどうか。

○豊福委員：

現在、愛知万博が話題となり盛り上がっているが、作り上げるためには大変な喧嘩になるなど、青臭い話しもあったという。西東京市で初めての国際交流組織を作るにあたっては、もっと青臭い議論があってよいのではないかと思う。もう少し自由な議論の時間があってもよいのではないか。

○島谷委員：

本来、理念が最初にあるべきである。しかし、西東京市では今回初めて国際交流組織の設立の検討するのであり、そういうときには、いろいろな人がたくさん意見を出し合って、それを集約して方向性を出していき、その方向性が懇談会や視察を通して、進歩して膨らんでくるのだろう。自由に意見を話し合うという順序が先にあるべきだったと思っている。その後で、視察等をしたほうが、考え方などに進歩があったのではないかと思う。

○斉藤委員：

今までのさまざまな議論や、視察などを踏まえて考えればよいのではないか。

○鈴木委員：

私は今までに、非核・平和を進める西東京市民の会や公民館運営審議会委員として答申などに関わってきた。公民館のケースで話すと、公民館設立を求めて運動をし答申を出したが、実際に何がやりたいのかを決めるのは市民であり、事務局に伺いをたてるというものではない。どんなことやるにしろ、責任がもてるかということが問題である。細かく事業について書くのも答申のひとつの方法であるし、あるいは基本概念のみ書いて中間答申という方法もある。それは、この懇談会の議論の進行状況にもよる。レポートを出すのであれば出していただいて、それをもとにして進めるのも

よいと思う。とにかく、進行方法の議論で時間をかける必要はないのではないか。今は、とにかく意見が書けた人から、どんどん出していただいて全員で仕分けを行い、ひとつの議論を終わらせる。それで不足があれば、別の方法で考えるというように進めていくほうが、早いのではないか。

○木下座長：

いろいろな意見はあったものの、目的なのかそれとも目標なのか、また、レベルの大小の違いなどで議論がなかなか進まないの、とにかく書いて出していただき、分類することにより調整していく。

○豊福委員：

国際交流組織を設立したとして、ただ設立しても意味がない。何のために作るのかという点などが重要であって、そんなに簡単に進めてはいけないと思う。後になって、あのときもう少し議論しておけばよかったというような方法はどうかと思う。

○木下座長：

意見を出し合って、それについて議論する時間はある。事実、今日はレポートなどもないので、今日の懇談会の結果、議論の材料ができたら次回にレポートを出すのもよいのではないか。

○鈴木委員：

今、書き出している意見で話し合うのか、どうするのか、とにかく進める必要がある。豊福委員の意見もわかるが、今日は、意見を出して分類しながらまとめていくと決まっていたのであれば、時間配分を決めて、進めていけばよいのではないか。そうすれば、今日出た意見が目的なのか、目標なのか等も含め、議論することができる。方法よりも、中身の話のほうが大事なのではないか。

○木下座長：

前回の会議録にも書いてあるとおり、今日は意見をいろいろ出していただいて、話し合いをすることで、目的などを導き出す方法で進めることに、決まっていた。決して、豊福委員の提案されたレポートを書くことなどについて否定をしているのではない。そういうことが必要であれば、今日の話し合いをもとに書いていただいてもよいのではないか。

○豊福委員：

レポートを書くことを提案した件については、そうすることで意見が深まり、話しがまとまりやすいのではないかということが言いたかった。レポートの件というよりも、

もう少し自由に青臭い話しをしてはどうかと提案した。

○木下座長：

前回、自由な話し合いを行った。結論としては、実態調査をしなくてはできないというような意見が出るなど、今の現実とそぐわない。今、みなさんが持っているそれぞれ知識や経験のなかから、想像力を膨らませて考えていく。

○鈴木委員：

そろそろ意見を回収してはどうか。

(意見の付箋を回収)

○山辺副座長：

理念的、具体的提案、その中間という3つに分類分けをした。読み上げながら、確認し、意見をいただきたい。

(模造紙上で分類の確認および調整。以後別紙「KJ法による意見交換」参照)

○佐々木委員：

ここで話し合ってもよいが、まだ出てきてはいない大事な要素もあると思うので、次回までに何が抜けているのか考えてくるのがよい。

○豊福委員：

このKJ法をやっている、このままではまとまらないということがわかった。

○山辺副座長：

KJ法というのは、いろいろな人のばらばらである意見をまとめていくときのひとつの方法である。

○木下座長：

違いがわかるからこそ、そのなかでの共通点をさぐる作業である。

○鈴木委員：

必要とされることについては、ある程度出たと思う。あとは現実的に可能なのか、または人、場所などが必要になってくるので、これらを実現させるために必要なことは何かを考えていけばよいと思う。

まずは国際交流は大事なことなので、行政としても予算をしっかりとって対応すべきであるという提言をして、年間何千万という予算をつけるよう言うことも可能である。それに対し、行政が無理であるというのであれば、そこからまた考えていくことについては、準備会のほうに委ねることになってゆく。この懇談会で、低い額を要求する必要もない。

○豊福委員：

何をしたらよいかというのを決めるのも、理念によって異なる。結局この懇談会でどのように設立していくのかが決まるわけで、予算の件についても一本筋が通った理論でないと、難しいのではないか。

○鈴木委員：

一番大事なのは、人間が人間としてどう生きていくということである。

○島谷委員：

人には、情報を得るためにはどこにいくというように、生活導線というものがあり、それに入るということも組織の要素として大事である。

○鈴木委員：

西東京市には外国人も含めいろいろな市民が住んでおり、日本語ボランティア等の外国人支援のボランティアなどが大事な役割を担っている。こうした点からも、人権、平和のために組織を設立するというのが大前提であろう。まず、大事なところを懇談会で話し合い、格調高いものへと作り上げる。さらにそれを実現するためには、予算、職員がどのくらい必要なのかについて考え、市民がそれを監督するという組織を作る提言を市へする。あとは市民が、行事などについて随時必要な委員会のようなものを作って審議をするというかたちでよいのではないか。

○木下座長：

まずは、市民が国際交流組織がなぜ必要なのか納得するものを作る必要がある。盛り込むべき要素とはどんなものか。

○島谷委員：

「住み良い西東京市にするために」ということで考えると、情報も地図も援助も、人とのつながりも必要となってくる。外国人にとって住み良い西東京市というのが基本ではないか。

○豊福委員：

日本語教育については、民間の学校、行政が行う教室、そしてボランティアが行う教室もある。ボランティアの教室に通う外国人というのは、日本人の配偶者を持った人などが多いという話を聞いた。そういう側面を考えていく必要がある。武蔵野市では、市が教室を開催しているのか。

○木下座長：

武蔵野市の外郭団体である武蔵野市国際交流協会が実施している。

○豊福委員：

ボランティアをベースにするにしろ、うまく組織を構成する必要があるのではないか。

○山辺副座長：

住み良い西東京市という意見がでたが、組織の理念として、何か意見をいただきたい。

○富山委員：

今、出された意見についてバラバラに意見を話しているが、理念なら理念について、少しでも深めて話しをして、具体的提案や中間的なものについては、次回、会議録のなかのものを自分で考えを深めてくるのが良いと思う。

○鈴木委員：

住み良いというような話しが出たが、同じ「住み良い」という言葉でも、外国人にとって住み良いのか、日本人にとって住み良いのかによって、意味も異なってくる。また、「多文化」と「国際交流」という言葉で前回議論になったようだが、例えば日本語学校などの問題を中心に置いた組織にするのか、それとも多文化ということを中心にするのか。多文化という場合、差別の問題をどうするかということだと思う。例えば、障害者の場合、点字ブロックや段差などは視覚障害者にとっては場所などを識別するために必要なものだが、車椅子の人にとっては通りにくいものになってしまう。誰にとって「住み良い」かということ考えたときに、いろいろな人がいるということから、多文化という言葉が出てきたのかもしれないが、ここにさらに差別の問題、人権、平和についても一緒になったような言葉があれば良いと思う。「住み良い」という言葉だけでは不十分に感じる。どうしたことだから「住み良い」のかということが大事だと思う。

○木下座長：

これより、理念に分類した付箋の提案について意見を伺いたい。
理念に分類したキーワードとして、「地域住民」や「地球市民」という言葉が出ている。

○山辺副座長：

（「理念的」部分の読み上げ、枠内のキーワードの確認）

○佐々木委員：

西東京市では、外国人花嫁の問題などはあるか。また、外国人花嫁はトラブルを

抱えることが多いので、外国人花嫁の会というものがあるが、西東京市にはあるのか。

○事務局：

具体的に特定の国の花嫁が幹旋のようなかたちで大勢来ているという話しは聞いたことがなく、また、外国人花嫁の会というのも同様である。ただ、日本人の配偶者を持つ人がいろいろな点でトラブルを抱えているというのは、断片的に聞こえてくる。

○富山委員：

3月21日にコール田無で開催する外国人のために専門家相談会の結果について、大まかな内容の傾向でよいので開催後に教えていただきたい。

○事務局：

懇談会にて結果報告をする。

○豊福委員：

相談会なので、中に入って見ることは難しいと思うが、どういう人が来るのか、そしてどういう方法で開催するかなどは興味がある。実際外国人の相談というのは、弁護士や専門家でないと対応できない場合が多い。それを例えば国際交流組織でやるとすれば、なかなか難しいのではないかと思う。相談への橋渡しというような途中の役割になるのだろう。

○富山委員：

この件については、具体的提案のなかで話し合うのがよいのではないか。

理念について議論するにあたって、以前市から配布された市の基本計画の「創造性の育つまちづくり—ひとりひとりが輝くために」というなかに国際化推進が位置付けられているので、その背景も踏まえて話し合うのがよいと思う。

○佐々木委員：

基本計画の人権と平和の尊重のところに、「女性・子ども・高齢者・障害者・外国人などが差別されることのない地域社会の実現」とあるが、差別されることのないという表現は、差別されているということが前提にある。その言葉を例えば、お互いに助け合えるというように言い換えることで、かなり言いたい理念に近づくのではないか。障害者や女性についても言えることだが、その人たちに何をしてあげるというのではなく、お互いが享受しあっているという考え方であるべきだと思う。

○山辺副座長：

施策を求めていくとき、差別されていないのなら何もすることはないとなってしまう。例えば、外国人であることのみで本人が評価されない、必要な情報が入らない

というようなことが問題となっている。

○鈴木委員：

障害者について言うと、普通学級に行きたくても養護学校に行かされるという現実があるので、差別でないというほうが差別になる。

○佐々木委員：

現実になんと言っているのではなく、言葉の表現についての意見であった。

○豊福委員：

佐々木委員の言いたいことは理解できる。しかし、人にわかってもらうためには、こうした言葉でないとわかりづらい。否定的な部分を出さないと伝わりにくいときもある。

○富山委員：

例えば、外国人ということだけでプールへの入場を断られるということもあるという。私は人権擁護委員として、人種や民族等によって差別されることのない、地球市民というような考え方に立っている。

○佐々木委員：

外国人だけでなく、女性・子ども・高齢者・障害者も含まれているのが、大変良いと思った。

○鈴木委員：

言葉は良いと思うが、その実現のために必要な事業を考えたり、施策の切り口を考えていく必要がある。

○山辺副座長：

外国人で女性であったり、外国人で障害者であったり、高齢者であったりというように、重なっていくので、これらの言葉を全て入れたほうが良い。理念のどこかにこれを入れてキーワードにしたい。

○木下座長：

まずはキーワードを決めて内容を詰めていくような進め方でよいか。要素として、また考え方として不足しているものはないか。

○山辺副座長：

「地域住民、地球市民、多文化共生」というのは大きな原点である。「異文化、偏見・差別」がみんなのこころの問題であり、「平和、人権」が世界人権規約にもある権利の問題であり、この3つの要素それぞれが大事である。

○富山委員：

「異文化」とあるのは、差別にも当てはまるがここでは異文化を尊重することか。信条、思いやりと同時に合理性も必要である。

○山辺副座長：

差別も尊重も、人のこころの問題で、それらを解決するには長い時間をかけて教育やお互いの関わり合いがなくては進まない。そこで、そうした機会を交流組織がたくさん作っていかなくてはならないということに繋がっていく。

○豊福委員：

前回、個人的に国際という言葉が好きではないことを話したが、「共生」、「異文化」にも違和感を感じる。「地球市民」と意見を書いたのは私である。「共生」という言葉は、新しい言葉である。

○佐々木委員：

「多文化共生」という言葉は、この懇談会では馴染みがあまりないかもしれないが、専門誌などにはかなり頻繁に出てくる言葉で、これからは主流となるだろう。「異文化」だと常に日本を基本に考えてしまうが、そうではなく日本もひとつの国として考えるものである。

○豊福委員：

「共生」という言葉を聞くと、いかにも和気あいあいという感じだけがする。

○佐々木委員：

「多文化」、「共生」ではなく、「多文化共生」というひとつの言葉であり、決して珍しい言葉ではなく基礎的な言葉と認識していただきたい。

○富山委員：

「地球市民」というのは最終的に目指すところだと思うが、「多文化共生」という言葉は、国や市というような自分たちの拠りどころが踏まえられていないのではないかな。

○豊福委員：

確かに、それぞれアイデンティティというものはあるが、あまりそれを強く主張しすぎると、摩擦になりかねない。

○鈴木委員：

文明が発達して戦争が起きた。しかし文化の違いで戦争は起きない。文化と文明の違いがそこにある。

○佐々木委員：

文明が衝突するのであって、文化が衝突するのではない。

○鈴木委員：

考え方としては、「地球規模で考えて、地域で活動する（Think Global , Act Local）」ということだと思う。地球的な対応は現実的に不可能であるが、地球に住んでいる人間として、そして日本、西東京市に住んでいる人間として、考えれば良いと思う。「多文化」と「異文化」は違う概念であり、発言する際にはそこをはっきりしていただきたい。

○豊福委員：

文化というときに、国や地域などの社会の集団の特性をいう文化と、会社などの社風というような文化や、宗教など、いろいろな文化がある。

○富山委員：

現在、学校教育などで日本の伝統文化を見直そうと、授業などで取り上げる動きがある。

○佐々木委員：

あまり日本固有の文化やアイデンティティなどにこだわりすぎても、この会に馴染まないと思う。

○木下座長：

日本の文化を尊重することは、他の国の文化を否定することにはつながらない。自分の文化も否定されず、他の国の文化も認めていくことが多文化共生である。

○富山委員：

なぜ、佐々木委員は世界に誇れる日本文化が、ここでの話し合いに馴染まないとおっしゃったのか。

○佐々木委員：

別に文化を否定することではなく、この会は多文化共生に向けた方向で話し合っているので、ひとつの文化を主張しすぎることは馴染まないのではないかという意味で発言した。

○木下座長：

理念として考えたときに、地球市民というのは、日本も他の文化も否定することではないという確認でよいのか。

今日出たさまざまな意見については、今後も検討していく。ここで、次回以降につ

いての日程を確認したい。（日程、回数について検討）

○事務局：

予定では8月頃を目途として提言をしていただきたい。回数については、もう少し増やしてもよいと思う。

○木下座長：

4月は、日程は12日（火）および27日（水）の2回開催とする。5月以降は第3水曜日開催ということで、18日（水）に開催する。

○事務局：

会議録は、出来次第余裕を持って送る。

○鈴木委員：

今日の冒頭にレポートを出すという話があったが、意見等がある人は事前に事務局に送り、みんなに会議前に届くようにしてはどうか。

○木下座長：

提言のまとめ方については方法を検討することとして、次回の懇談会は4月12日（火）の午後6時30分からとする。